

～生浜の知らせ～



平成30年度

第72回卒業証書授与式

卒業生代表 日野 優太

答辞
朗

暖冬とはいえ、寒さにふるえた季節は暖かな風が和らげ、花たちが春の訪れを喜ぶかのように咲き始めました。

そんな季節の中、私たち卒業生は中学校三年間の最後の日を迎えました。これまでの日々を頭の中で思い浮かべては、いろいろな感情が体の中を駆け巡っています。

三年前の春、サクラが満開だったあの日。私たちはこの生浜中に入学しました。着慣れない制服に身を包み、新しい仲間たちと新しい学校生活が始まりました。

小学校の時とちがった生活はたびたび私たちを悩ませました。部活動、委員会活動、学校行事など、初めて経験するものばかりで、先輩方について行くのに必死でした。それでも、中学一年生という一年間は、見るもの聞くもの全てが新鮮に感じることでできる楽しい一年間でもありました。

そうして新鮮な一年間はあっという間に過ぎて二年生に進級しました。

この年は自分が先輩でも後輩でもある難しい年でした。先輩方の後ろ姿を追いかけていられる時

間はすぐに終わり、部活動と委員会活動では周りをリードしていく立場になりました。うまく立ち回れず、空回りしてしまうこともありました。時には自信をなくすこともありました。そんな時には仲間との絆で壁を乗り越えることができました。

二年生の大きな行事の一つである自然教室では、上州の山々に囲まれた千葉村で、自然を愛することと、仲間との協力の大切さを学びました。澄んだ空気の中での学年レクは学級の団結力をより高めてくれました。

三度目の春を迎えるとともに、私たちは義務教育最後の過程である三年生になりました。そして最高学年になったという意識で始業式に臨みました。進級してからの四月は大忙しだったのを覚えています。修学旅行と体育祭、さらには生徒総会と三つの行事の準備がありました。

修学旅行では自分たちの飯能観光ルートを自ら計画しました。信州松本の歴史ある街並み、上高地の清らかな川と堂々たる山々の美しさ、またその郷土の文化を体験しました。思い出すこと全てが良い思い出ばかりです。

朝、雨雲が空を覆っていましたが、昼には全校生徒の熱気で雲を追い払い、成功させた体育祭。どの競技でも生徒全員が一生懸命になっている姿は、見ている人の胸を熱くさせました。また、応援団長を中心に盛り上げた応援合戦。紅白どちらも譲らない白熱した戦いでした。さらに三年間の思いを込めて行った組体操とマスゲームは、最後の一秒まで神経を集中させ悔いの残らないものになりました。

夏の陽射しが強くなり、いよいよ総体、コンクールの時期になりました。今までの練習の成果が十分に発揮できるように顧問の先生の指導の下、一日、一日の練習の時間を大切に、本番に臨みました。どんな結果でもそれまでの努力がこの先につながっていくことを実感し、仲間たちとの最後の部活動に幕を引きました。

まだ暑さが残る秋、三年生最後の行事でもある合唱コンクールを迎えました。指揮者やパートリーダーの下、一人ひとりが率先して歌の練習をしました。なかなかまとまらないときでも今まで培ってきた団結力で各学級の歌は聴いている人を感動させる歌声になりました。



合唱コンクールが終わってからは、いよいよ受験に向けて、それぞれが努力をする時間が増えました。学校で、家で、塾で。得意な教科を伸ばしたり、苦手な教科を克服したりと、どんなに辛くても今まで一緒に過ごしてきた仲間もどこかで努力していると思うと、あきらめずに努力することができました。「いつかきっと実る」と信じて前進を続けました。

そんな私たちを遠目ながらも、私たちが立派な社会人として育つように見守ってくれた地域の方々。温かい挨拶を交わすことで、お互いの心も温かくなったのを感じました。

学校での私たちを全力で支えてくれた先生方。授業や部活動は勿論、私たち生徒が明るく元気よく活動するために、私たちの知らないところで動いてくださいました。また、進路指導では熱心に私たちの話を聞き、力を尽くしてアドバイスをしてくださいました。厳しい指導も面白いお話しも全部、私たちの宝物です。ありがとうございました。



在校生の皆さん。部活動や委員会活動ではともに活動しましたね。一年生はこれからあと二年間ありますが、一日一日の勉強、部活動、委員会活動の時間を大切にしてください。時間は今、この瞬間にも過ぎていきます。その時その時にしかできない何かを見つけて、全力投球してください。

二年生はいよいよ最高学年になります。これからは中学校の看板を背負って行動することが多くなります。一つ一つの仕事に責任を持ち、周りの人を想って行動してください。それがリーダーというもので、大人への階段の一つでもあります。応援しています。

そして、ここまで一緒に来た仲間たち。毎朝一緒に登校するのがとても楽しみでした。冗談を言い合ったり、喧嘩をしたり、仲直りして一緒に笑ったり。どんなに辛く悲しい時もともに泣き、ともに乗り越えましたね。皆がいたからこそ、ここまで来られました。今までありがとう。

最後に私たちをいつも見守り続けてくれたお父さん、お母さん。わがままを言ったり、八つ当たりしてしまったり、たくさん迷惑をかけました。家族の力は他の誰の力よりも私たちを支えてくれました。でも、そんなことも考えずに反抗してし

まう時もありました。私たちを一番に想っていたからこそ、普段踏み込まないような領域に立って話してくれたんですね。あの時は私たちの心の成長につながりました。十五年間も育ててくれて本当にありがとう。

名残惜しいですが、私たち卒業生は今日、この生浜中学校を卒業します。このような仲間と思い出をくれてありがとう。私たちはここで学んだこと、思い出、笑顔と感謝を忘れずに未来へ羽ばたきます。さようなら愛する生浜中学校。

送辞 在校生代表 長谷部 美佳

長く厳しい冬もようやく終わりをづけ、ほほをなでる風が暖かく、柔らかな春の訪れを感じるようになりました。三年生の皆様、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

時がたつのは早く、皆さんが生浜中学校に入学され、三年が過ぎました。三年間の中学校生活は長く感じられましたか。短く感じられましたか。一日一日を大切に、最高の仲間とともに過ごした日々が鮮明に思い出されることと想います。私も先輩方とともに過ごし、教えていただきました多くのことが思い出されます。

真夏のような陽射しが照りつけ、めまいがしそうなほど暑かった校庭で、汗だくになりながら全身全霊で臨んだ体育祭。個々の戦いも白熱した素晴らしいものでしたが、中でも男子の組体操や、女子のマスゲームでは、団結力や一糸乱れぬ華麗な動きの感動が今でも目の前によみがえってきます。また、応援団の先輩やダンスリーダーの先輩は何ヶ月も前から準備をし、毎日のように遅くまで練習している姿を見て、私たちも体育祭を成功させたいという気持ちが大きくなっていました。

そしてむかえた体育祭当日、全学年が一致団結し、これまでにないほどの盛り上がりを見せることができました。これも先輩方が協力し、一つのものを作り上げることの大切さを教えてくださったからだと思えます。

皆様が一年間を通じ、最も思い出深い物の一つに、部活動があるのではないのでしょうか。夏の焼けるような日も、空気の冷たさが肌を刺すような冬でも、仲間とともに目標に向かって一生懸命に取り組んできました。

自分たちの練習をしながらも、私たちが困っていたり、迷っているとすぐに声をかけ、アドバイスをしてくださいました。時には、先輩方のしどろにきびしさをかんじることもありましたが、今私たちが先頭に立ってみると、その厳しさは私たちに対する本当の優しさだったと気づくことができました。時には厳しく、時には優しくご指導くださったこと深く感謝しています。先輩方から学んだ、礼儀や努力することの大切さは部活動を通して後輩達に伝えていきます。

『響けみんなの音色』をスローガンに、各学級ひと



い合ったり、喧嘩をしたり、仲直りして一緒に笑ったり。どんなに辛く悲しい時もともに泣き、ともに乗り越えましたね。皆

つとなり行った合唱コンクール。全学級それぞれに個性があり、まとまった美しい音色で、聴いている私達は息を飲みました。ホール一杯に響き渡った歌声は言葉で言い表わせないほどの感動をくださったとともに私達も負けぬような響きを出せるようにしたいと、心から思える歌声でした。

結果発表の時、先輩方が全力で喜び、全力で悔しがる姿を見て、三年生がどれほどの思いで取り組んでいたのかを知りました。そして自分たちが賞を取れていなくてもライバルに温かい拍手を送る、これが最高学年のあるべき姿なのだと学びました。

卒業生の皆様、
たくさんのことを教えていただきありがとうございました。
皆様が今日、生浜中学校を卒業されることは正直に言うとても寂しいです。また、四月から私達が最上級生になるということに少し不安と戸惑いも感じています。ですが、教えていただいた協力すること、努力すること、何事にも全力で取り組む姿勢を一つ一つ思い出し、生浜中の伝統を受け継ぎ、一歩でも先輩方に近づけるように日々精進していきます。



今、先輩方は希望や夢を胸に抱き、羽ばたこうとしています。これから始まる長い旅の途中で、迷ったり、壁にぶつかったりすることがあると思います。ですが、この生浜中で過ごした仲間と、数え切れないほどの思い出を胸に、先輩らしく突き進んでいってください。私たち在校生は先輩方が未来へと進んでいく姿を全力で応援しています。卒業なさっても、時には生浜中にいらしてください。

最後に、皆様の今後のご健康とさらなるご活躍を心からお祈りして、送辞とさせていただきます。

第七十二回卒業証書授与式 式辞

校長 石田 邦治

やわらかな陽射しに正門の桜のつばみも膨らみ、菜の花の鮮やかな黄色が春の訪れを告げています。

この佳き日に、千葉市教育委員会、渡辺基博様をはじめ、学区小学校並びに近隣高等学校の校長先生方、また、地域からご支援くださっている多くのご来賓のご臨席を賜り、第72回卒業証書授与式を挙行できますことを心から御礼申し上げます。

202名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。ただ今、皆さんが手にした卒業証書は9年間の義務教育を終了した証であり、又今後、自分の意志でそれぞれの道を歩んでいくことの始まりを示すものでもあります。

この大きな節目を迎え、皆さんの胸には、多くの

出会いと様々な思い出にあふれた中学校生活が去来しているのではないのでしょうか。

私が皆さんと始めて顔を合わせたのは、昨年の四月の着任式でした。その場にふさわしい緊張感と凛々しさが印象的な3年生の態度には、自分たちが学校を引っばっていくんだという強い気持ちが感じられ、とても頼もしく思いました。

そして、その時寄せた期待はその後の様々な場面で形として現れ、私は皆さんから多くの喜びをもらいました。体育祭で応援団や種目のリーダーとして、下級生に示してくれた生浜中の伝統、そして3年生としての誇り。今思い出しても胸が熱くなります。

修学旅行の上高地は、山の天気の違いを思い知らされました。「後から振り返れば、この雨も忘れられない思い出になります。」ずぶ濡れでそう話しかけてきた素直な笑顔が忘れられません。

また、秋の合唱コンクールでは、全員が力を合わせてやり遂げることの楽しさ、素晴らしさを1、2年生に教えてくれました。

そして進路選択とその実現に向けての努力。皆さんはその大きな壁に3年間ともに過ごしてきた仲間と励まし合いながら一緒に向き合い乗り越えました。

これから新たな一歩を踏み出す皆さんには、その時、その時自分の前に立ちはだかる壁に、背を向けずに挑戦し続けていって欲しいと願っています。

サッカー元日本代表の三浦知良選手は、先日52歳の誕生日を迎えましたが、今シーズンも又、横浜FCの現役選手として親子ほど年の離れた若い選手達と出場機会を目指して競い合っています。たとえ一分でも試合に出て、チームの勝利に貢献するために、今できる最善のトレーニング、そして今なお、技術を高めようとする探究心を持って、日々を過ごしている様子が伝えられています。そこには、過去の栄光にすがらななどという姿は全くなく、「日々好きなサッカーをもっと上手になりたい!」という純粋な姿勢を感じます。

そして三浦選手はこう言っています。「チャンスがあれば、また日本代表に戻ってワールドカップに出場したい。そして、それをまだあきらめていない。」と少し照れながらも真剣に語る三浦選手の表情は輝いて見えました。それは、少年の日に抱いた夢に向かって今も、全身全霊でチャレンジし続ける者の放つ輝きなのだと感じました。

三浦選手のこの挑戦し続ける姿は、Jリーグの選手だけにとどまらず、世の中の多くの人に勇気と希望を与えてくれると思います。

中学校を卒業し、それぞれの進路に行く皆さん



を取り巻く社会は、大きな転換期を迎えています。間もなく、平成から新しい年号に変わり、来年には東京でオリンピック・パラリンピックが開催されます。また、人工知能の進化は、社会に大きな変化をもたらすことが予想されます。

この時代の節目、そして社会の転換期の担い手である皆さんに求められていることの一つは、未知のものに臆することなく、チャレンジしていく姿勢だと考えます。そしてもう一つ、変化の大きい時代だからこそ、人として持つべき変わらない大切なこと、それは人と人をつなぐ笑顔であり、感謝の心だと思います。

生浜中学校で慣れ親しんできたこの二つの言葉を胸に、これからの道を焦らずにしっかり歩いてほしいと願っています。

終わりに、本日ご列席の保護者の皆様、お子様のご卒業誠にありがとうございます。お子様の誕生から今までの年月を思えば、感慨もひとしおのこととご推察いたします。今後も、かけがえのない我が子を信頼し、見守り、心のよりどころとして温かく支えていっていただきたいと思ひます。

結びに、この三年間、本校の教育活動に深いご理解とご協力をいただきました保護者の皆様、並びに地域の皆様方に代表して心から感謝申し上げますとともに、卒業生の輝かしい前途を祈念して式辞といたします。

祝辞 P T A 会長 三谷 真

卒業生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。無事にこの中学校を巣立ち、羽ばたいていくこの日を迎えられましたのも、日々熱心にご指導下さった先生方のおかげと、深く感謝しております。

また、日頃から温かく見守って下さっている地域の皆様にも多数ご臨席賜り、共にお祝い頂きます事、お礼申し上げます。誠にありがとうございます。

保護者の皆様。この日を迎えられ、胸を撫で下ろしている事と思われます。多くの子供たちが迎える、初めて自分で選び選択した道。大人たちより平然としている姿に、焦燥感に駆られたのではないのでしょうか。

今でも鮮明に覚えています。君たちが産まれてきた瞬間を。恐る恐る抱っこをし、か細い声で、何かを訴

えている姿。一生懸命握り返してくれた小さな手。余りにも小さな命に心配になり、夜も寝られず朝まで寝顔を見ていたあの日。最初に覚えた言葉はなんだっただろう？ パパかな？ ママかな？ 一緒に布団で寝ていたのに、いつの頃からか、一人で寝て、膝の上からいなくなり・・・。

憎まれ口を叩かれようが、どんな事をしようが、いつまでたっても、家族になったあの時を忘れてはいけません。義務教育がこれで終了します。これからは、自分の力で道を選択し、歩いていかなければいけません。その分岐点の今日、今までのお礼を言わせて下さい。

ここまで大きく育ってくれて、ありがとう。

さて、これから新たな道へと進んでいく皆さんへ、保護者の一人として、二つお話をさせていただきます。

一つ目は、何かを反省、考える際にはなぜ？を5回繰り返してみてください。僕が常日頃から実践している方法です。なぜを5回繰り返し、本当の隠れた原因を突き止めます。1、2回目は自分が原因になることが多いでしょうが、3回目位から登場人物に自分だけではなく、他の人や周りを巻き込む、協力を仰ぐなど、原因の根本や全体像が見えてきます。

人はミスを起こします。また全員が自分と同じ考えではありません。人の行動にはバラツキがあります。起こした事を反省するのは当然ですが、それでは解決になりません。また起こす可能性があります。そんな時はなぜ？を5回繰り返してみてください。結構難しいです。

これから先、自分の道を選択する際に、面倒だな、苦手だなと思う事があれば、それは自分の不得意な能力を鍛えているのだと考えてみてください。そして選択を迫られた時は、楽な道よりもあえて険しい道を選ぶことにより、同じゴールに着いたとき、険しい道を進んだ人は、考える力や新たな能力を得ていることでしょう。

二つ目は、これから先の人生は、自分の努力のみならず、周りの協力を得た人が成功するという事。学校や会社、家庭でも、一人では成り立ちません。自分以外の人の事を考えて行動し、共存して行かなければ、生きていく事も難しくなります。例えば、コンビニやレストランなども、相手の事を考えて行動しています。どうしたら、喜んでくれるか。どうやったら、買ってもらえるか。それには、相手を観察しないといけませんし、何を求めているかを、考えなければいけません。先生や、保護者、友達、恋人、関わる人全てに同じことが言えます。自己主張も大切です。ですが、生浜中学校だけでも600人。その中のたった一人の考えでみんなが動いてはくれません。

生浜中学校で共に過ごしてきた大事な仲間を大切に、そしてこれから出会う新たな人たちとの出会いを大切にし、お互いを思いやり、助け合えるような素敵な関係を、たくさん作って下さい。



中学生活3年間はあっという間だったと思います。
これから先、目まぐるしく生活環境は変わっていくでしょう。ですが、生浜中学校で身に着けた3年間の経験は、大いに役立つことと思います。応援しています。
自分自身の目標や夢をしっかりと持ち、失敗を恐れず積極的に物事に向かっていってください。

そして、この地に多くの仲間がいる事、お世話になった先生方、大切な家族、地域の皆様がいる事を忘れないで下さい。

皆さんの未来に幸多かれと願い、挨拶とさせていただきます。

本日は誠におめでとうございます。